

「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト・キックオフ集会 講演資料  
(2013.02.09、小山市立生涯学習センター)」

# 愛知ターゲットと にじゅうまるプロジェクト

国際自然保護連合日本委員会  
道家哲平

2013年2月9日



いのちの共生を、未来へ  
COP10/MOP5  
愛知-名古屋 2010



# 生物多様性

- 「**生物の多様性**」とは、すべての生物(陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなを問わない。)の間の**変異性をいうもの**とし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む。
- "Biological diversity" means the variability among living organisms from all sources including, inter alia, terrestrial, marine and other aquatic ecosystems and the ecological complexes of which they are part; this includes diversity within species, between species and of ecosystems.
- Vary + ability レジリエンス(回復能力)



生物多様性が豊か

環境に変化に耐える力、元の状態に回復する力を持っていることを意味している

- 愛知ターゲットについて
- 愛知ターゲットを達成するための仕組み「にじゅうまるプロジェクト」について

COP10で何が生まれたか？



# 生物多様性戦略計画(愛知目標)

## 私たちの「20の約束」






# 国連生物多様性の10年 2011-2020

- 呉地さんが、2009年9月に開催したIUCN-J主催のシンポジウムで提案→CBD市民ネットの提案→日本政府の提案→65回国連総会(2010)で正式に決定。



**United Nations Decade on Biodiversity**

LIVING IN HARMONY WITH NATURE



生物多様性戦略計画  
(愛知ターゲット)

STRATEGIC PLAN 2011-2020



**戦略目標 E**  
 参加型計画立案、知識管理と能力開発を通じて実施を強化する。

**目標 17:** 2020 年までに、各種の国が、効果的で、参加型の改訂生物多様性国家戦略及び行動計画を策定し、政策手段として採用し、実施している。

**目標 18:** 2030 年までに、生物多様性とその慣習的な持続可能な利用に関連して、先住民と地域社会の伝統的知識、工夫、慣行が、国内法と関連する国際的義務に従って尊重され、生物多様性条約とその作業計画及び植民の事項の実施において、先住民と地域社会の完全かつ効果的な参加のもとに、あらゆるレベルで、完全に認識され、主流化される。

**目標 19:** 2020 年までに、生物多様性、その価値や機能、その現状や傾向、その損失の結果に関連する知識、科学的基礎及び技術が改善され、広く共有され、適用される。

**目標 20:** 少なくとも 2020 年までに、2011 年から 2020 年までの戦略計画の効果的実施のための、全ての資金源からの、また資金動員戦略における統合、合意されたプロセスにおける統合、合意されたプロセスに基づく資金動員が、現在のレベルから顕著に増加すべきである。この目標は、締約国により策定、報告される資源のニーズアセスメントによって変更される必要がある。

※ ABS (遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分) に関する名古屋議定書遺伝資源を利用する際、資源提供国の事前同意や相互利益を義務とし、提供国と利用国が公正かつ衡平な利益配分をするため、締約国が実施すべき具体的な手続きを決めた。遺伝資源を研究し、開発することは「遺伝資源の利用」にあたり、遺伝資源を利用してつくられた薬などは利益配分の対象となったが、薬の使い方など伝統的知識の利用も利益配分の対象であると明示された。各国が遺伝資源の利用を監視するチェックポイントを 1 か所以上つくるのが義務付けられたが、その体制は各国の制度に合わせてしまった。今年 2 月から署名の手続きが始まり、50 か国以上が批准すれば正式発効する。

**【ミッション(使命)】** (2020 年までの短期目標)  
 生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する。これは、2020 年までに、回復力のある生態系と、その提供する基本的なサービスが継続されることが確保され、それによって地球の生命の多様性が確保され、人類の福利と貧困解消に貢献するためである。これを確保するため、生物多様性への圧力が軽減され、生態系が回復され、生物資源が持続可能に利用され、遺伝資源の利用から生ずる利益が公正かつ衡平に配分され、適切な資金資源が提供され、能力が促進され、生物多様性の課題と価値が主流化され、適切な政策が効果的に実施され、意思決定が予防的アプローチと健全な科学に基づく。

**戦略目標 D**  
 生物多様性及び生態系サービスから得られる全ての人のための恩恵を強化する。

**目標 14:** 2020 年までに、生態系が水に関連するものを含む基本的なサービスを提供し、人の健康、生活、福利に貢献し、回復及び保全され、その際には女性、先住民、地域社会、貧困層及び弱者のニーズが考慮される。

**目標 15:** 2020 年までに、劣化した生態系の少なくとも 15% 以上の回復を含む生態系の保全と回復を通じ、生態系の回復力及び二酸化炭素の貯蔵に対する生物多様性の貢献が強化され、それが気候変動の緩和と適応及び砂漠化対策に貢献する。

**目標 16:** 2015 年までに、遺伝資源へのアクセスとその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書が、国内法制度に従って施行され、運用される。

**戦略目標 C**  
 生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることににより、生物多様性の状況を改善する。

**目標 11:** 2020 年までに、少なくとも陸域及び内陸水域の 17%、また沿岸域及び海域の 10%、特に、生物多様性と生態系サービスに特別に重要な地域が、効果的、衡平に管理され、かつ生態学的に代表的な良く連続された保護地域システムやその他の効果的な地域をベースとする手段を通じて保全され、また、より広域の陸上景観又は海洋景観に統合される。

**目標 12:** 2020 年までに、既知の絶滅危惧種の絶滅及び減少が防止され、また特に減少している種に対する保全状況の維持や改善が達成される。

**目標 13:** 2020 年までに、社会経済的、文化的に貴重な種を含む作物、家畜及びその野生近縁種の遺伝子の多様性が維持され、その遺伝資源の流出を最小化し、遺伝子の多様性を促進するための戦略が策定され、実施される。

**「新戦略計画 2011-2020 (通称: 愛知ターゲット)」**

環境省資料より [http://www.env.go.jp/press/Title\\_view.php?serial=16471&hou\\_jid=13104](http://www.env.go.jp/press/Title_view.php?serial=16471&hou_jid=13104)

**【ビジョン(展望)】** (2050 年までの中長期目標)  
 この戦略計画のビジョンは、「自然と共生する」世界であり、すなわち「2050 年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、それによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」世界である。

生物多様性条約 COP10 の最大の成果は、名古屋議定書(※)とともに、条約の今後 10 年間の活動の方向性を示す愛知ターゲットを採択したことです。個別の目標の中には「表現が複雑となり、伝わりにくくなった」と評価される部分もありますが、日本の自然保護活動にも役立てられるところがたくさんあります。

**戦略目標 B**  
 直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する。

**目標 5:** 2020 年までに、森林を含む自然生態系の損失の速度が少なくとも半減。また可能な場合には半に近づき、また、それらの生態系の劣化と分断が顕著に減少する。

**目標 6:** 2020 年までに、すべての魚類、無脊椎動物の資源と水生植物が特約的かつ法律に即ちかつ生態系を基盤とするアプローチを適用して管理、収穫され、それによって過剰漁獲を避け、回復計画や対策が枯渇した種に対して実施され、絶滅危惧種や脆弱な生態系に対する漁業の深刻な影響をなくし、資源、種、生態系への漁業の影響を生態学的な安全の限界の範囲内に抑えられる。

**目標 7:** 2020 年までに、農業、養殖業、林業が行われる地域が、生物多様性の保全を確保するよう持続的に管理される。

**目標 8:** 2020 年までに、過剰栄養などによる汚染が、生態系機能と生物多様性に有害とならない水準まで抑えられる。

**目標 9:** 2020 年までに、侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶される。また、侵略的外来種の導入又は定着を防止するために定着経路を管理するための対策が講じられる。

**目標 10:** 2015 年までに、気候変動又は海洋酸性化により影響を受けるサンゴ礁その他の脆弱な生態系について、その生態系を強化させる複合的な人為的圧力を最小化し、その健全性と機能を維持する。

**戦略目標 A**  
 各政府と各社会において生物多様性を主流化することにより、生物多様性の損失の根本原因に対処する。

**目標 1:** 遅くとも 2020 年までに、生物多様性の価値と、それを保全し持続可能に利用するために可能な行動を、人々が認識する。

**目標 2:** 遅くとも 2020 年までに、生物多様性の価値が、国と地方の開発・貧困解消のための戦略及び計画プロセスに統合され、適切な場合には国家策定、また報告制度に組み込まれている。

**目標 3:** 遅くとも 2020 年までに、条約その他の国際的義務に整合し調和するかたちで、国内の社会経済状況を考慮しつつ、負の影響を最小化又は回避するために生物多様性に有害な奨励政策(補助金を含む)が廃止され、段階的に禁止され、又は改革され、また、生物多様性の保全及び持続可能な利用のための正の奨励措置が策定され、適用される。

**目標 4:** 遅くとも 2020 年までに、政府、ビジネス及びあらゆるレベルの関係者が、持続可能な生産及び消費のための計画を達成するための行動を行い、又はそのための計画を実施しており、また自然資源の利用の影響を生態学的限界の十分安全な範囲内に抑える。

新戦略計画の全文には、ここに掲載した愛知ターゲットの文章以外にもさまざまな政策事項が書かれている。新戦略計画を含め、決議された文章の原文は生物多様性条約事務局の公式ページに掲載。(全文英文) <http://www.cbd.int/nagoya/outcomes/>

全文は長いのですが、、、

# 2050年 人と自然が共生する社会

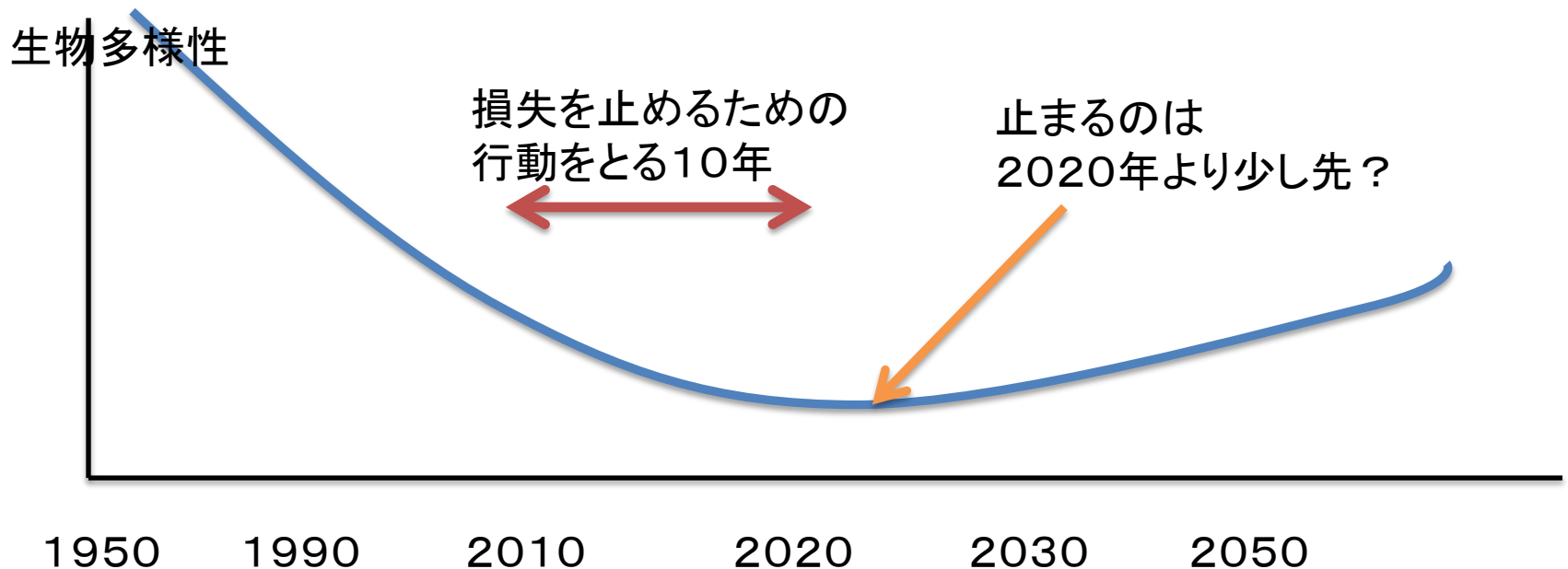


人と自然の共生イメージ図



# 2020年の目標

2020年までに生物多様性の損失を止めるための行動を起こす



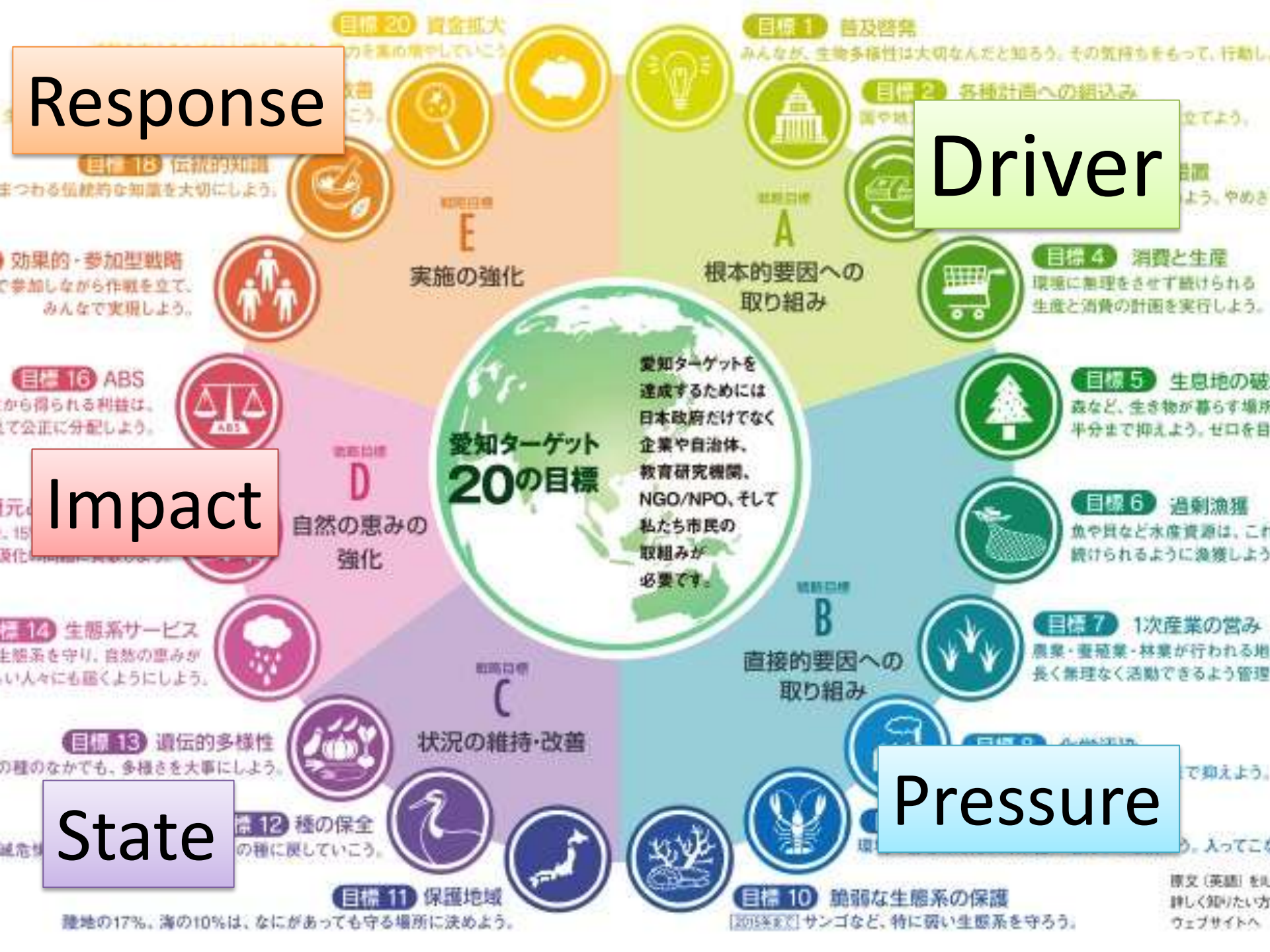
Response

Driver

Impact

State

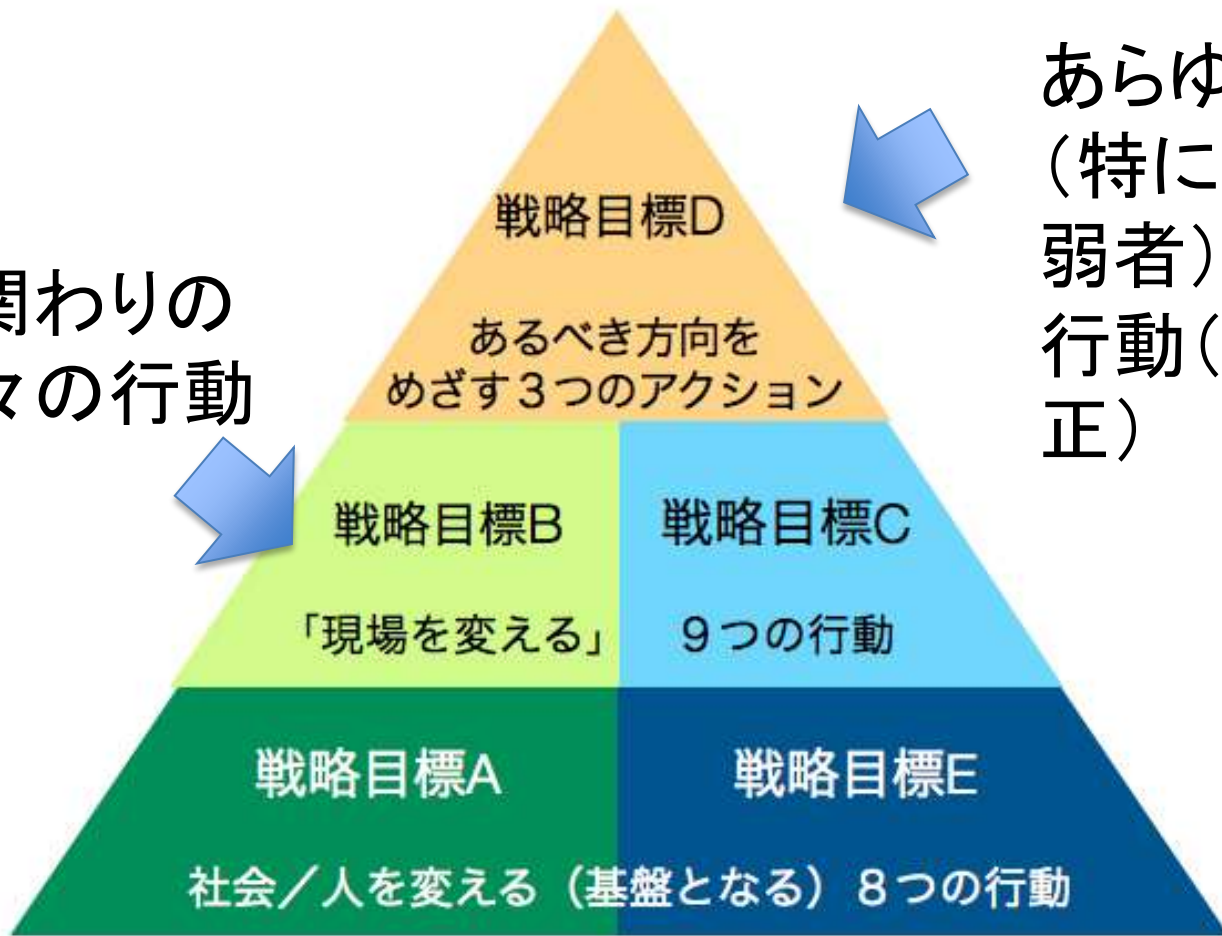
Pressure



## 愛知目標ってすごい！

- 地球規模、国家規模、地域規模で、
- 多様な主体（国連、国際機関、政府・自治体・科学者・NPO・ユース・市民・農家・林業家・漁師・・・）がそれぞれの立場で
- 生物多様性・自然の恵みを守り・向上させ、賢明に利用し、公正に利益を分かち合うための行動を
- **分かりやすく20に単純化し、2020年までの目標としてまとめあげた。**

現場に関わりの  
深い人々の行動



あらゆる人々  
（特に、社会的  
弱者）のための  
行動（社会的公  
正）

多様な主体、多くの参加・巻き込み



どうすれば、この  
**20の約束**を  
守れるか？





にじゅうまる  
プロジェクト

守られてるから、  
守りたい。  
この星すべての生命。

Supported by



# その1

忘れさせないように分かりやすい資料を作る。

愛知ターゲットを分かりやすく

## ＝超訳 愛知目標とアイコンの作成



# アイコンの作成



普及啓発



各種計画への  
取り組み



補助金・奨  
励措置



消費と生産



生息地の  
破壊



過剰漁獲



1次生産の営  
み



化学汚染



外来種



脆弱な  
生態系の保護



保護地域



種の保全



遺伝的  
多様性



生態系  
サービス



復元と  
気候変動対策



ABS



効果的・  
参加型戦略



伝統的知識



知識・技術の  
改善



資金拡大

## その2 参加型キャンペーン

知る

- 愛知目標やにじゅうまるプロジェクトを知る

考える

- 自分の活動と、愛知目標とのつながりを考える

宣言する  
(活動登録)

- ロゴやアイコンを使いながら、行動する

活動と愛知ターゲットの関係を  
確認・助言

にじゅうまるメンバーに仲間入り



# 愛知ターゲット実現のために： 「忘れさせないー実行する」

20は多い。＝取組み状況を見える化

ターゲットだけ＝「目標達成のための行動」に翻訳

多様な主体の巻き込み＝企業も、自治体も、NGOも、  
政府も取り組む（国民運動化）

世界目標＝世界レベルでの展開





NGO



## 山崎川グリーンマップ

- 山崎川の昔の様子の聞き取りと冊子作成

## バイオダイバーシティインフォメーションボックス

- 生物多様性愛知ターゲット自分ごと化計画

## なごや生物多様性保全活動協議会

- 市民協働の生物調査・保全活動、なごや生きもの一斉調査

## 伊勢三河流域ネットワーク

- 味わって知る私たちの海



連携認定事業



## 企業



### 名古屋商工会議所

- ・ 中小企業向け名古屋議定書・愛知ターゲットガイドブックの作成

### 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス

- ・ 三越伊勢丹 メリーグリーンクリスマス クリスマスチャリティキャンペーン

### JTBコミュニケーションズ

- ・ 鳴き声から生き物の種別を特定「ききみみずきん for iPhone」

### 株式会社損害保険ジャパン

- ・ Web約款で日本の自然を守ろう！ SAVE JAPAN プロジェクト



連携認定事業



# 自治体



## 千葉県生物多様性センター

- 生命のにぎわい応援団、普及啓発活動の実施

## 石川県環境部里山創成室

- 里山里海の利用保全を通じた生物多様性保全の取組

## 名古屋市環境局

- 藤前干潟の保全活用推進

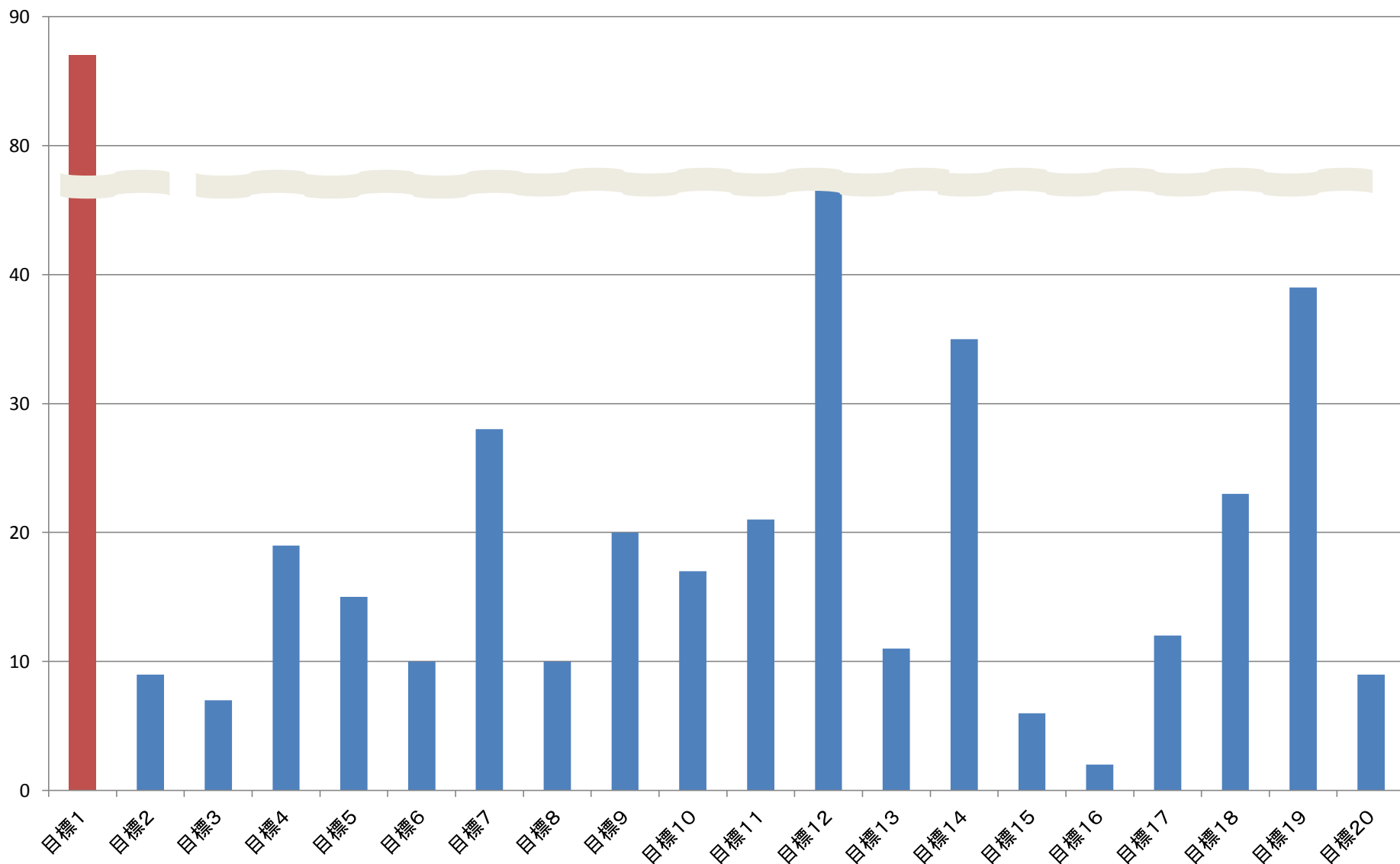
## 愛媛県県民環境部環境局自然保護課

- 生物多様性えひめ戦略推進事業

# この仕組みの狙い

- 【世界に対して】愛知目標を、行動に置き換えることを促進
- 【登録団体に対して】地域の活動が「愛知目標達成につながっているよ」と言ってあげる
- 【日本全体にとって】誰が、どこで、どんな目標に取り組んでいるかを見える化＝行動をはかる指標・モニタリング
- 【行動していない人たちへ】愛知目標への取り組みかた具体事例から提供して、行動を促す

# 取り組み状況の可視化



# 海外の活動

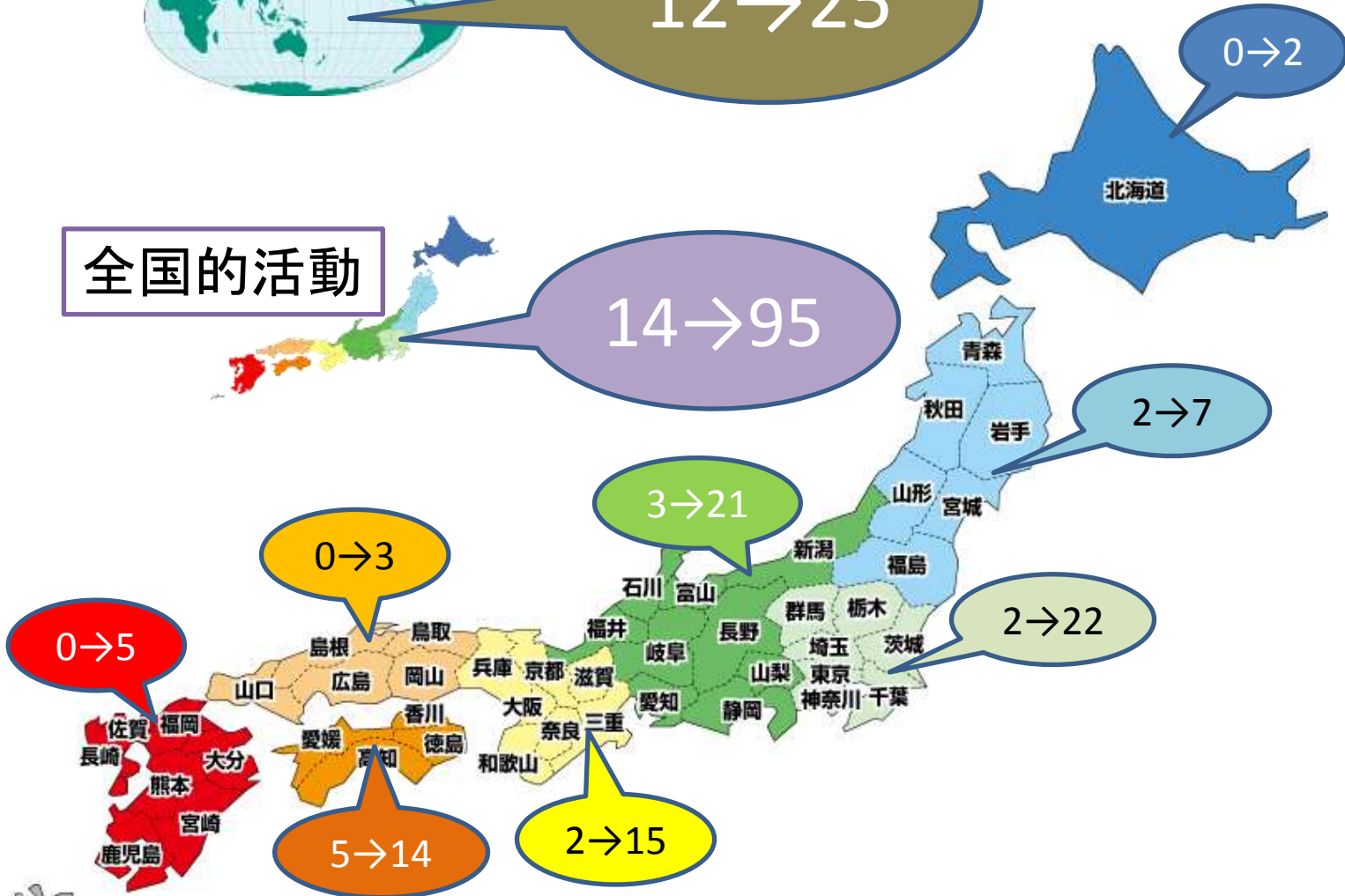


12→25

# 全国的活動

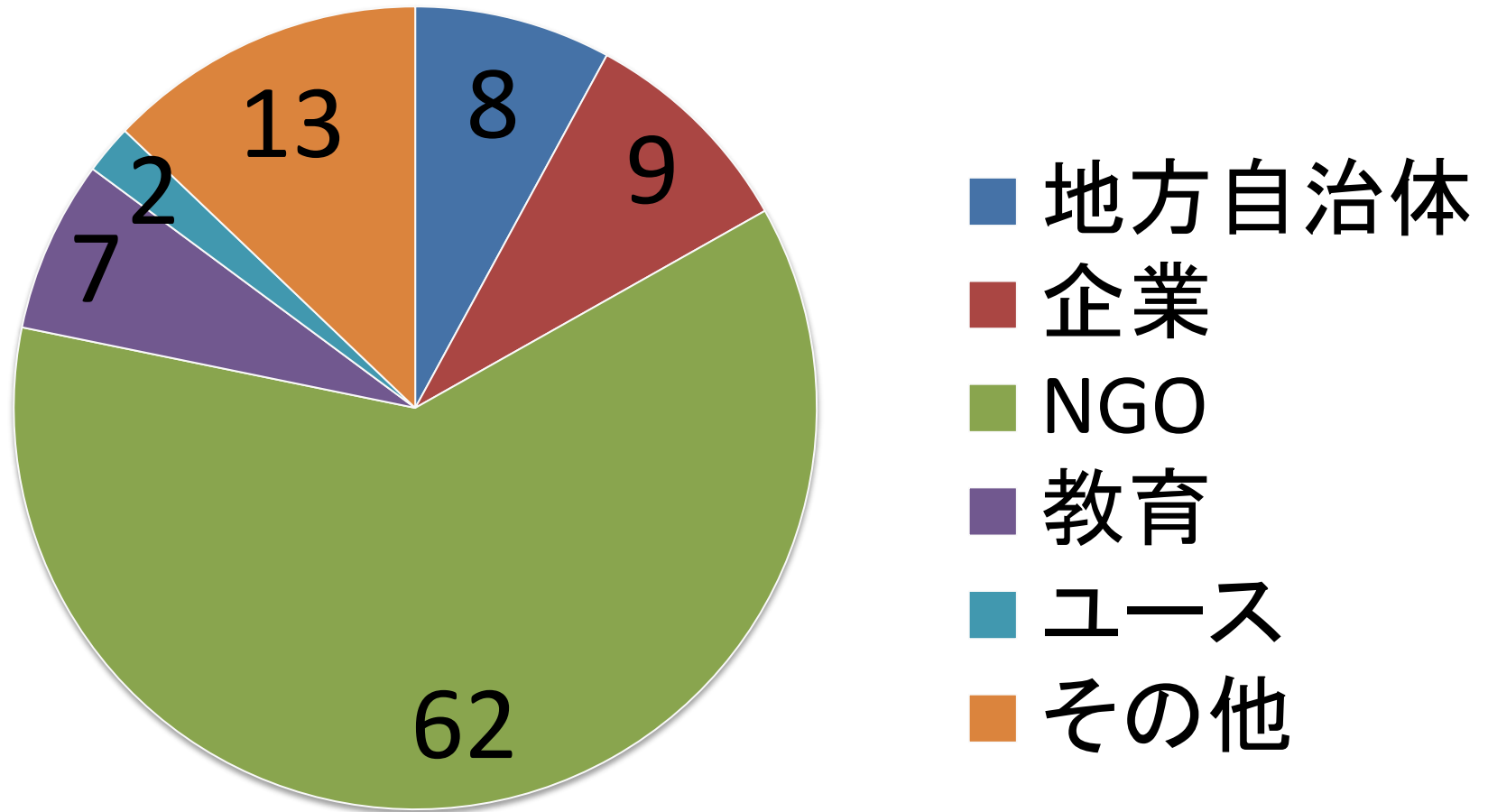


14→95





# セクターごとの比較



登録後はどうなるの？



# 世界発信



## Join Nijyu-maru Member

### Local actions for achievement of Aichi Biodiversity Targets in Japan.

The Project is supported by Japan Fund for Global Environment and Kaituma House Charitable Fund.

#### Natural History Museum and Institute, Chiba

### 1 Ecology Park promoting local biodiversity conservation and public awareness

Natural History Museum and Institute, Chiba, has been the Ecology Park to promote and realize the nature of Chiba region at the former National Livestock Experiment Station. It has been involved in maintaining and restoring native grass and animal communities for 20 years. Now the Museum maintains the plant community garden for visitors to enjoy the various types of forest and natural landscape common to the Boso Peninsula, carried out conservation works at the regional woodlands and park, and realize an alternative of existing invasive species.

We also develop basic learning activities to be familiar with nature and cultivate the understanding of biodiversity through nature walk, school tours and learning programs for school and general public, such as "Research: Track of the Flower" and "Water Bird Survey".



[http://www2.chiba-muse.or.jp/?page\\_id=223](http://www2.chiba-muse.or.jp/?page_id=223)



#### Yamazakigawa Green Map

### 2 Activity to reduce invasive species to protect native species

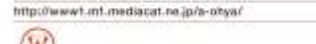
"Yamazakigawa River" runs through west central part of Tokyo. On the river water Corporation an Biodiversity (CCF) was held to protect the river as an important place for people and wildlife. One of the main tasks is to remove invasive species along the river. However many species have become naturally reduced in numbers and some have disappeared due to human activities. The natural Park-based citizen/academic groups are active to be very people in the park, and summer season (Summer Camps) took an active work 100 people also species collected by CCFF, have been released into the river. But it showed the disappearance of native fish and insects.

We said "I guess the most invasive species are larger fishy species since common fish disappeared altogether after the park has opened. The river's biodiversity is seriously threatened."

On the other hand, the Yamazaki River Green Map, which is a joint project started at the elementary school water garden have formed the learning investigation. Now local elderly men and women about the old Yamazakigawa River. The purpose of this work is to record the species which has become extinct from the river. On the other hand, we continue the investigation and the extermination of the invasive species continuously from 2008. The number of invasive species has decreased into 10% and the number of the Japanese and native fish/river/ryb species, Japanese endemic species, had been about to double extent, has been increasing from 2008.



<http://www1.tn-medical.co.jp/s-07yaf/>



#### The Executive Committee for Biodiversity and Children's Forest Campaign

### 3 Biodiversity and Children's Forest Campaign

The Executive Committee for Biodiversity and Children's Forest Campaign was founded based on a desire to encourage children to learn how to enjoy living in harmony with nature and help contribute to nature's longevity.

It made up of groups who have links with domestic and abroad schools and national youth organizations, and it promotes to identify various appropriate zones as the Green Wave, to children to become familiar with and develop an interest in and concern for biodiversity.

In 2011 to mark the UN Decade on Biodiversity starting, we held an event and the aim is to create a network between organizations conducting practical activities and to contribute to their mutual development. In these opportunities, there were prepared relating to Japan's role in the Green Wave from the perspective of a traditional way of the forest in its harmony with nature and Japan's new culture, spaces for activities that promote and increase opportunities to see forests in Green Wave within Japan, as well as for the creation of learning materials and guides for these materials to increase children's understanding of biodiversity and give them the knowledge required to consent to sustainable actions.

From this point on, we are hoping to continue to expand to cover an even wider range of forest domestically and abroad, under our network and engage our circle of interests.

(Committee of Affiliated Organizations) : CEFF, Japan, OOGA Japan, National Environmental Protection Organization, Child-Friendly Biodiversity Network, National Forest Inhabitant Association, Japan Forest Resilience Association, Japan-Environment Education Forum, Japan Environmental Association, Ecological Conservation Society Japan, Japan-Naturelover's Association



facebook: [www.facebook.com/greenwave.jp](http://www.facebook.com/greenwave.jp)  
 web: [www.greenwave-net.com](http://www.greenwave-net.com)



#### Ramsar Network Japan

### 4 10 year plan of Biodiversity enhancement in Rice paddy field

"10 year plan of biodiversity enhancement in rice paddy" is a plan for various projects with aim to achieve the maximum rice paddy biodiversity enhancement made by Ramsar Convention and Committee on Biological Diversity. Currently we support and promote "1000 basins survey in rice paddy" and "Rice paddy field water after harvest" (Rice paddy field water) in the future, we will launch the "10 year plan of biodiversity enhancement in rice paddy field" as a study project and support biodiversity related knowledge through training for parkkeepers to better and local people who have interest in biodiversity in rice paddy and surrounding wetlands.



<http://www.ramnet-j.org>



#### Ramsar Network Japan

### 5 The Wetlands Green Wave

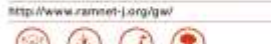
Since 2010 Ramsar Network Japan has coordinated "The Wetlands Green Wave" making national awareness program across Japan to take part in a month-wide campaign. The campaign aims to educate children and citizens about the value of wetlands and to encourage them to take the action to conserve wetlands. During the three month period from April to June, when wetlands in Japan are teeming with life, participating groups organize a variety of events around the country to help raise public awareness about the immense value of wetlands biodiversity. In the three years since 2010 a total of 148 groups have organized outdoor workshops, open-air learning, seminars, photo exhibitions, design projects and many other unique activities.

"The Wetlands Green Wave" is supported with the Green Wave national biodiversity conservation campaign promoted by the Ministry of the Environment and other government agencies in Japan and is supported by the Ramsar Convention Secretariat (Japan Group). At 2010 GEF's bilateral of agricultural cooperatives and other partners.

Ramnet-J joined "The Wetlands Green Wave" as an action network. CEFF, governmental, education, participation and awareness activity that contributes to the UN Decade on Biodiversity 2011-2020. It is also registered with "Nijyu-maru Project (20 companies)", a nationwide campaign promoted by the Japan Committee of GEF to help achieve the Aichi Biodiversity Targets.



<http://www.ramnet-j.org/gw/>



#### Mottainai Grandma's World Report Exhibition Committee

### 6 Mottainai Grandma's World Report Exhibition - Biodiversity for Children -

Mottainai Grandma's World Report Exhibition is telling about our daily life in accordance to the exhibition, which has occurred in the world. At problems occur they might not have occurred if the life was connected at "Mottainai" as thought the Japanese word, which means "Don't waste" and tells the importance of life with respect. Mottainai Grandma is the character of Japanese payshu (elderly) a book. She has through 10 stories of species in danger of extinction, we are telling how to be appropriate of these species connected to us.

The exhibition contains 14 illustrated panels of living things which are familiar to children, such as "Tiger, Shrew, Elephant, Asian Leopard, Hippopotamus, Polar Bear, Giant Panda, Sea Otter, Orangutan, Dugong, and Blue Whale. Besides there are an explanation panels attached, which are about "What is biodiversity?" "The means living things disappear (Extinct), and the protection of living things (Conservation)", and the protection of living things (Living things, it's everyone's "Care").

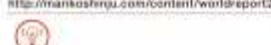
"The Nature of the world by the author of 'Mottainai Grandma'." Marks things as a message of Aichi Biodiversity managed by Ministry of Environment. The look of the feature is planned to be used as a learning material.

Mottainai Grandma says, "The reason the earth is so abundant is because there are so many varieties of living things. The Earth is not only for human being but also for all life. Lives are connected each other, and each life is just as important as the next. If you are willing to live, instead of thinking only of yourself, then you can create a world in peace."

Let's think about how we can all live happily together on this planet!



<http://mankosharu.com/content/worldreport2/>



# 続々計画中 2013年度事業

- 年次大会 2014年2月関西
- 「にじゅうまるなガイドブック(仮)」の作成 愛知ターゲットが実現する暮らしをにじゅうまるメンバーの活動を使って紹介。
- 「市民が守る 保護地域」の特定、認定  
市民・民間の手で、保護地域目標を25%に



にじゅうまるプロ  
ジェクト登録事業  
など

認定

UNDB-J推奨の  
連携事業

多様な主体の連携: 多くの主体の連携

取組の重要性: 種や生息地に直接・間接的効果

取組の広報の効果: 広報により、類似活動に展開

2020年  
愛知ターゲットについて  
何ができて  
何ができなかったかを  
日本が責任を持ってとりまとめ、  
次の目標につなげていく。

# にじゅうまるプロジェクト

- 2020年に達成の○(まる)
- 20の個別目標全てで達成の○(まる)
- 世界を見据え、
- 現場で汗をかく人々こそ…

○(まる)じゃあ足りない

◎(にじゅうまる)!





2020年開催予定

生物多様性のオリンピック

IUCN第7回世界自然保護会議を  
日本に誘致しよう

